

昭和二十八年十月六日創刊
四年四月十六日発行 第五七一号

東京書道院

蜀苑

米べい

芾ふつ
(一〇五一~一一〇七)

蜀素帖しょくそじょう
(24)

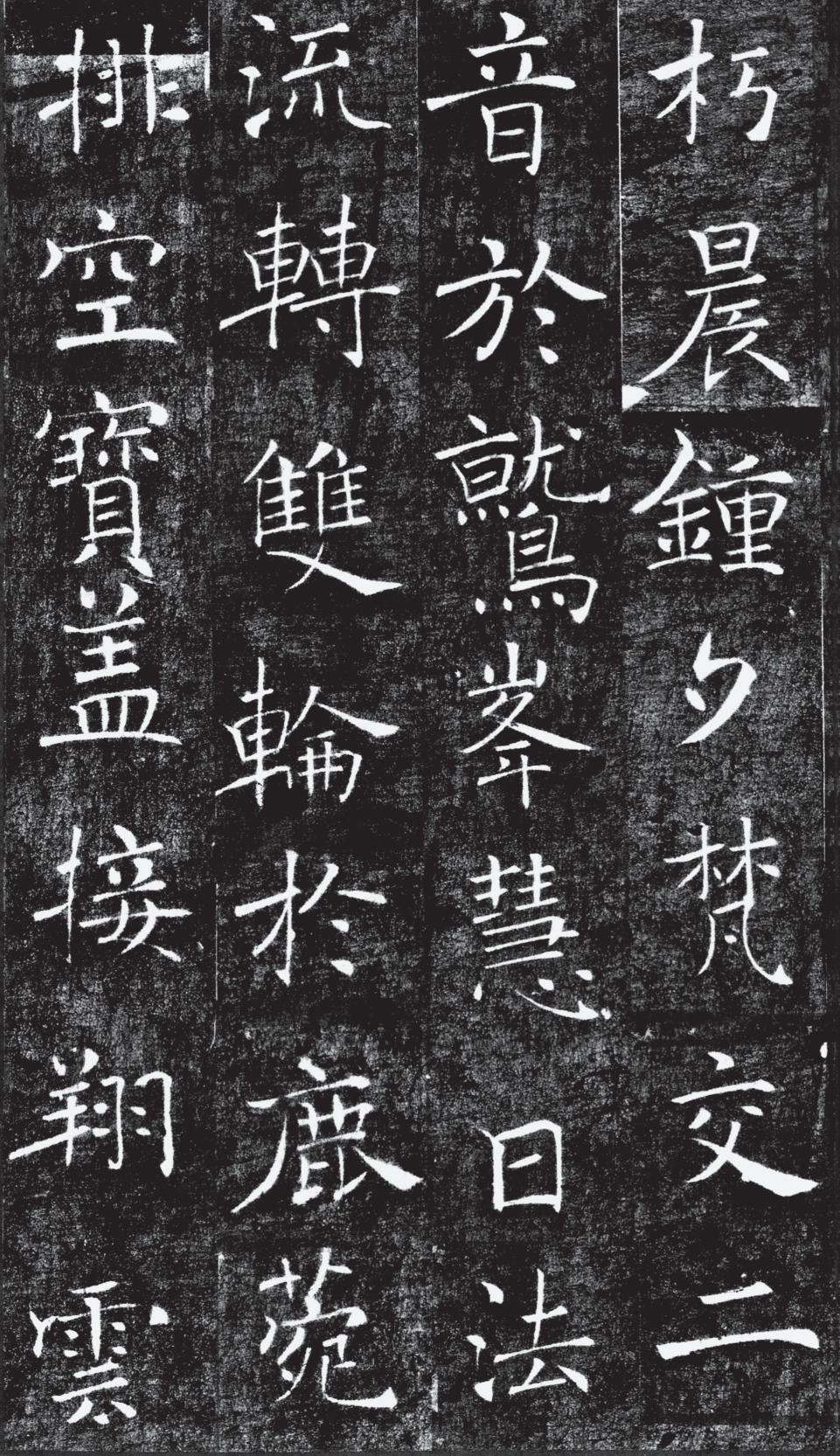
書

捨殊塗首廻首
元祐戊辰九月廿三日 溪堂米黻記



(取) 捨殊塗莫廻首。元祐戊辰九月廿三日。溪堂米黻記。
(取) 捨するも 首を廻らす莫かれ。元祐戊辰九月二十三日、溪堂米黻記す。

雁塔聖教序は永徽四年（六五二）、褚遂良五十八歳時の筆である。「序碑」と「序記碑」からなる。「序記」は、仏教の伝来や玄奘の功德などを称揚、「序記碑」は、太宗の理解と玄奘の事業の意味とを述べている。



朽。晨鍾夕梵。交二音於鷲峯。慧日法流。轉雙輪於鹿苑。排空寶蓋。接翔雲……

排空の宝蓋は、翔雲に接して……

晨の鐘と夕の梵は、二音を鷲峰に交え、慧日の法流は、双輪を鹿苑に転ず。

排空の宝蓋は、

たのしみは(八)空暖か(可)に(一)うち晴(は)れ(連)し(志)春秋の日に(耳)いで歩く(久)とき(起)(橋 曙覧・全歌集)

(橋 曙覧・全歌集)

まきやのり
こじ生へ

たのしみ、や、後へ

玉井恵草書

床前看月光 疑是地上霜
床前月光を見る 疑うらくは是れ地上の霜かと
寝台の前で月の光を見る 地面に降りた霜のようだ
（静夜詩 李白）
頭を挙げて山月を望み 頭を低れて故郷を思う
頭を挙げて山上の月をながめ 頭を垂れて故郷を思う

李白 静夜詩

床前看月光 疑是地上霜
床頭望山月 低頭思故鄉
李 白 静夜詩

伊豆彦草書

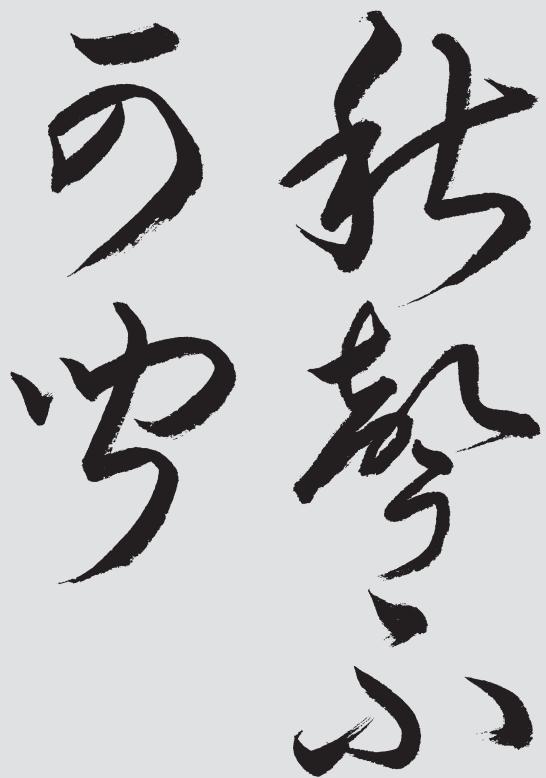
可
秋
聞
聲
不

旅愁、愁思どころの心情ではない

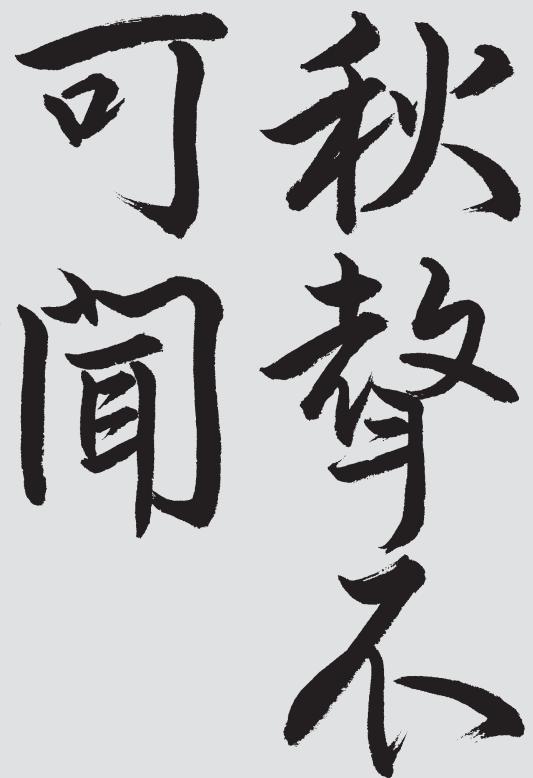
書風は自由

規定部・かな部・硬筆部の級位は異なります。混同しないで下さい。

行書　山崎香草書



草書　山崎香草書

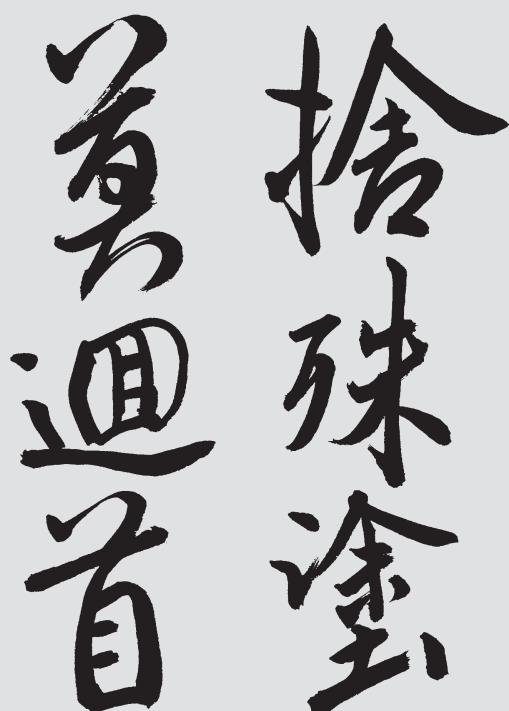


随意部は自由な作品を出品することができます。ただし、氏名を草書で書いた場合、必ず朱字楷書で添書してください。

臨書指針「雁塔聖教序」

輪於鹿苑

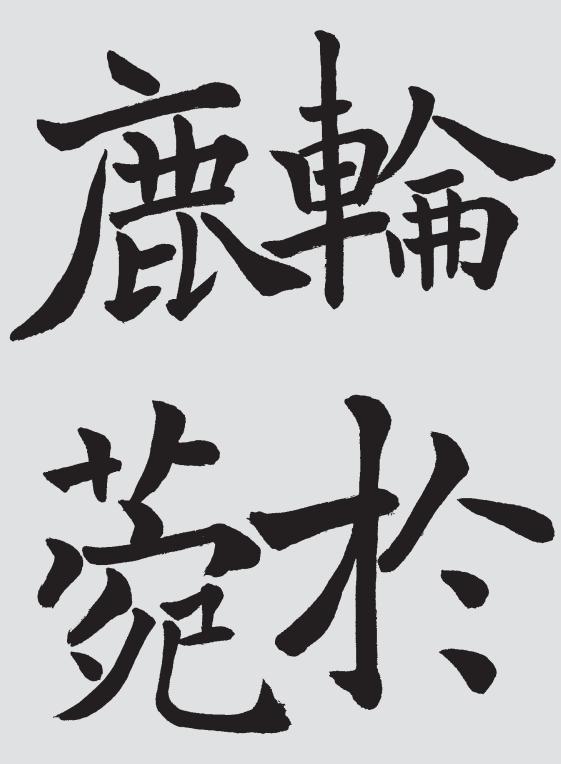
※臨書の落款は「臨」。



臨書指針
米芾「蜀素帖」

捨殊塗莫廻首

※臨書の落款は「臨」。



加峯翠香臨

鈴木裕巳臨

仮名課題 1級以下

仮名課題 初段以上

かな部規定課題手本 岩崎美舟書
春の海(うみ)ひねもす(寸)の(乃)た(多)り(里)のたり(利)かな
(与謝蕪村)

あふことの(能)絶えてしなくは(八)な(奈)か(可)な(ヽ)か(ヽ)に
人をも身を(越)も(毛)うら(羅)み(三)さ(佐)らまし(之)
(中納言朝忠)

かな部規定課題手本 秋葉硯舟書
次号課題 哀ともいふべき人はおもほえでみのいたづらになりぬべき哉
(謙徳公)

む慈心

作品には、必ず「段級」・「氏名」を書き、左下に「バーコード出品券」を貼付してください。

祝成長を

規定部・かな部・硬筆部の級位は異なります。

富士

作品には、必ず「段級」・「氏名」を書き、左下に「バーコード貼付券」を貼付してください。

誠実

月日

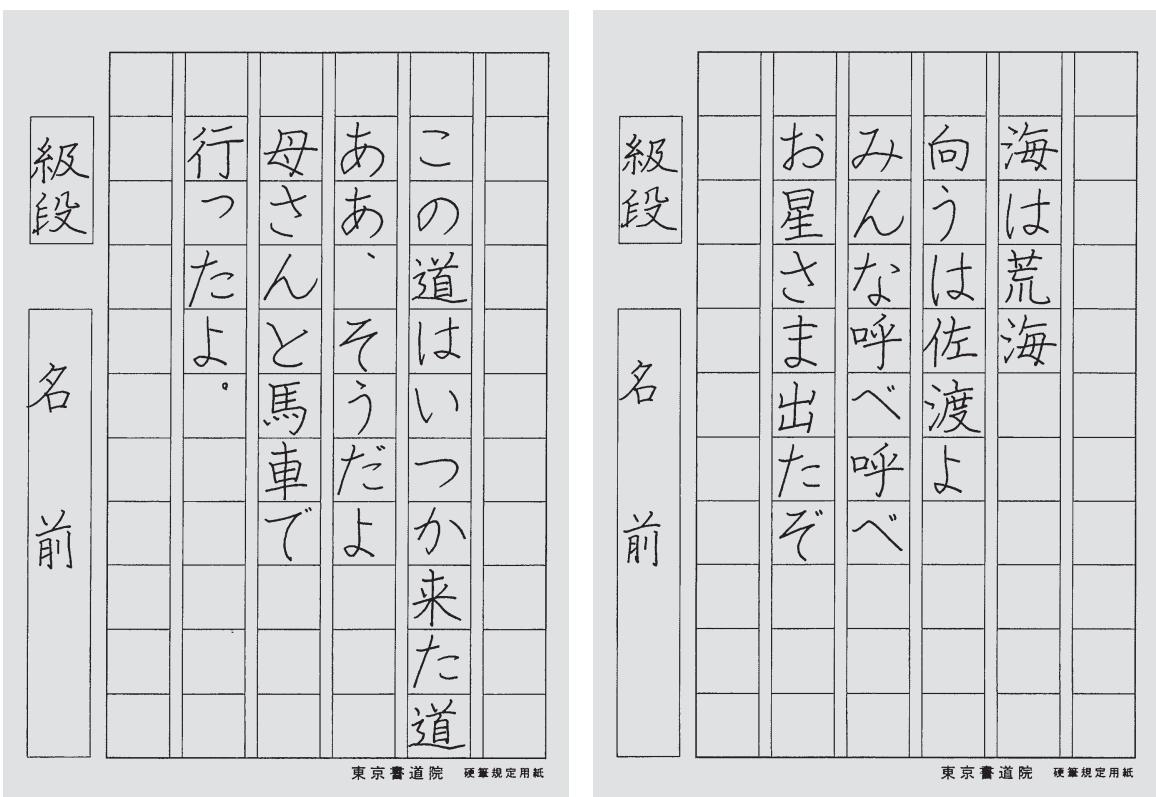
作品には、必ず「段級」・「氏名」を書き、左下に「バーコード出品券」を貼付してください。

入門

生

作品には、必ず「段級」・「氏名」を書き、左下に「バーコード貼付券」を貼付してください。

し
る



作品には、必ず「段級」・「氏名」を書き、左下に「バーコード出品券」を貼付してください。





作品には、必ず「段級」・「氏名」を書き、「バーコード出品券」を貼付してください。

書道用語集

『改訂

知つておきたい書道の基礎知識
（リンクス出版 880円より）

裏打ち（うらうち）
書画を掛け軸や額装にするため、或いは保存のために、作品の本紙の裏に和紙を貼ることです。裏打ちには、薄美濃紙や鳥の子など薄手の上質のものが使われます。

裏打ちをすると皺や折り目なども

なくなり丈夫になることから、物事がしつかりしているさまを「何々に裏打ちされた」と表現しますが、この言葉はここからきています。

運筆法（うんぴっぽう）

運筆法というのは、筆の運び方・使い方で、指・肘・腕などからだ全体を使って筆を運ぶことをいいます。これに対して、用筆法は一点一画の起筆・送筆・收筆の筆使いをいいますが、一般に混同されることがあります。

また、筆の持ち方を執筆法といい、この三つ（運筆法・用筆法・執筆法）は密接に関係しています。

永字八法（えいじはっぽう）

「永」の字に八つの点画が全て含まれているとして、その用筆を示したものです。八つの点画というのは、側・勒・

弩（のぎ）・趯（とぎ）・策（さく）・掠（りょう）・啄（たく）・磔（たぐ）です。図に示すと左のようになります。



絵因果経（えいんがきょう）

絵因果の前世での物語などを説いた『過去現在因果経』を書写したもので、普通の写経とちがい、上段に絵が描かれ、下段に経文が書かれた、絵巻形式の写経です。現存する遺品は奈良時代に書写されたもので、絵は彩色が施され文字も優れた美しい経巻です。



円硯（えんげん）

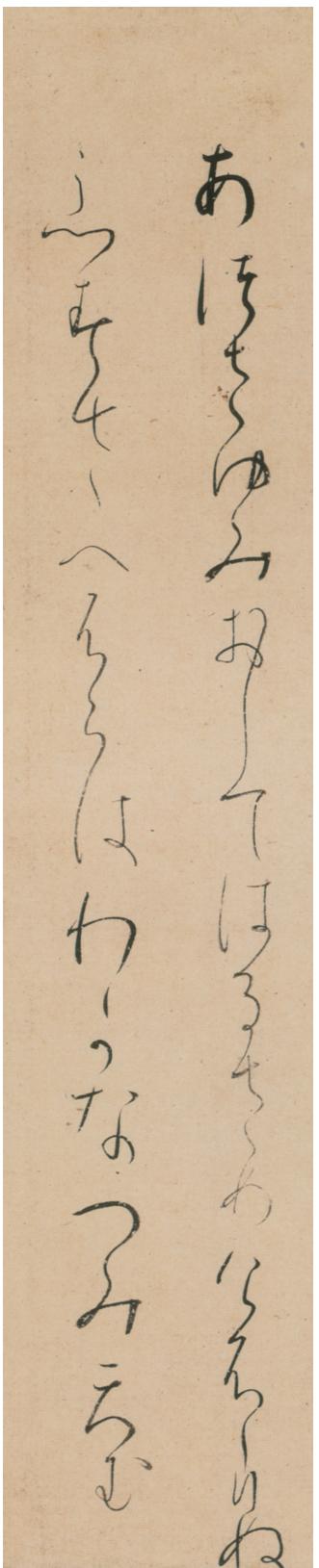
円硯（えんげん）というのは、円形の硯のことで、円面硯ともいいます。市販されているのは円周に縁があるものが普通で、大量に墨を磨るのに適しており、自動墨磨り機によく使われます。



絵因果経

こうやきれだいいつしゅ
高野切第一種(14)

「高野切」の筆者は、撰者すなわち紀貫之と伝称されている。同じく第一種・第三種もともに紀貫之の筆と伝えているが、二種の異なる書風すべてを同一筆者と見なすことは不合理である。今日、「高野切」は『古今和歌集』ができた十世紀初頭から一世紀半後の十一世紀半ば頃の筆と推定されているが、この第一種の筆者は未詳である。



あづさゆみおしてはるさめけふりぬ
あづさゆみおしてはるさめけふりぬ
あすさへふらばわかなかつみてむ
あすさへふらばわかなかつみてむ